

## ◆ 2月号の天気コラム

## 光の春

小寒から節分にかけてが、一年でもっともきびしい時期。しかし、日脚は一日早く春にむかって歩みはじめています。東京の日の出の時刻は、2日で1分くらい早くなり、節分のころには6時40分になります。もちろん、日没も毎日1分程度遅くなっており、日脚は確実に伸びています。寒さは底ですが、光の春は折り返し点を過ぎました。(『日本気象協会編、アリス館』より)

## ◆ 会報閲覧室 (玉造連盟事務所)

『京都労山』2017年12月号・No.294

京都府勤労者山岳連盟／13頁

毎月、各会から会報や府県連盟ニュースが連盟事務所に届けられています。この会報・ニュースは、いつでも閲覧できるように連盟事務所(玉造)の会報閲覧コーナーに置いています。いつでも是非ご覧ください。

今月は同じ連盟、京都府勤労者山岳連盟の機関紙。毎月13～17ページ編集のコンパクトな機関紙で一目で京都府連の取り組みが分かります。表紙も山出勝治さんの山岳風景の墨絵、大峯奥駈けの絶景が連載されていました。墨絵や写真は撮影者の心も伝わってくるから不思議ですね。毎月、目次のページに掲載されている「京都労山・6つの合い言葉」も京都労山のチームワークが伝わってきます。なかでも「私達は山を勤労者の身近なものにする為に力を合わせよう」と素晴らしいメッセージも。各専門部の報告もB5の1ページサイズずつでまとめられているのも京都労山機関誌の特徴です。連載の樹木のはなしや交流登山・自然観察の報告も読み応えがありました。このような機関紙作りも考えてみたいものです。

## ◆ 1月、この一冊を 『京都府山岳総覧』(内田嘉弘他、なかにしや出版)

私の故郷は京都府伊根町、この本の出版を知り、高額(2200円)でしたが迷わず購入しました。小学校時代から眺めていた故郷の蝙蝠岳(311m)も掲載され、昨年春に蝙蝠岳に登って、眺望の良さから改めて低山の名峰を知りました。京都府の山は339峰が案内され、まさに京都の山がよくわかる「百科全書」です。本書は丹後、丹波、山城と北から南へ、それぞれの解説で、山名の由来、その山にまつわる伝説や古歌、俳句、樹木や花々、地質などがふんだんに盛り込まれています。巻頭を飾る、巨樹や花、峠・湿原のカラー写真も、多彩な京都府の山の魅力を伝えてくれます。また「若狭から京都への峠道」「芦生原生林」など9編のコラムもコンパクトにまとめられ、京都の山に関する知識を広げてくれます。私は京都の山はあまり登っていないのですが、今後この書を手引きに未踏の峰々を踏破していきたいと思いました。

### ◇編集後記◇

1月13日～16日、連盟（平和と登山委員会主催）で沖縄へ行ってきました。天候は概ね晴れ、気温が23℃の時もあって半袖の人も。沖縄三日目は本部半島の嘉津宇岳（452m）への登山のあと、八重岳山麓の桜の名所へ。ここは名護市と並んで緋寒（ひかん）桜が美しい場所、山頂まで道路が整備され、中腹あたりが見所です。丁度この時期、緑の樹木の中に緩やかなカーブを描いて続く桜並木にピンク色の桜が咲き始めていました。こんな風景にみんなは「もう春らんまん、素晴らしいなあ」と桜の枝を手にとって記念写真を撮っていました。1月の20日からは沿道で桜祭りが行われるそう、沖縄の春が本格的に始まります。（大西）



本部半島、中央部が嘉津宇岳・八重岳



下に向けて咲く緋寒桜



沿道の至るところが桜の名所

\*\*\*\*\*

今月も各会より会報を送っていただきました。 安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぼんぼん山（高槻）、奈良県連ニュース滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、服部、大西清

\*\*\*\*\*